日本学術会議市民公開シンポジウム

農学の最前線 －先端科学と応用技術－

平成 28 年

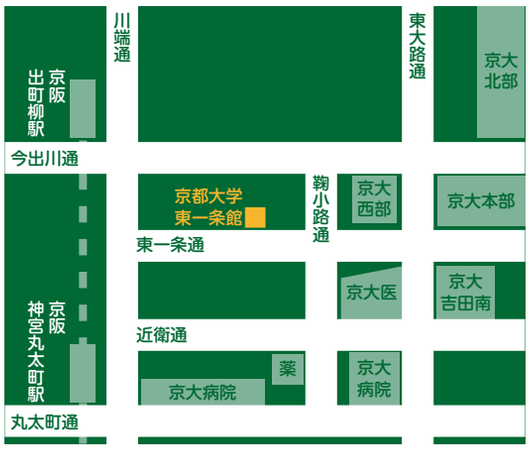
8 月 6 日 (土)

13:30 ～ 17:30

参加費無料

京都大学東一条館思修館ホール

（東大路東一条西 200m北側）



人類の生活の糧を担う学問である農学分野は、分子生物学やナノ材料・計測技術等の発展に伴い、人類の生存にとって不可欠な食料、生命、環境を対象とする総合科学として益々その重要度を増しています。

本公開シンポジウムでは、農学分野の先端科学と応用技術について、最近の発展をわかりやすく解説し、その未来を展望します。講演では、市民生活と関連が深く、市民の関心が高い TPP の話題、遺伝子資源の利用と保存、感染症、遺伝子組み換え技術、セルロースナノファイバー等を取り上げます。

開会挨拶

講演

1．**先端科学でイネの収量はどこまで向上できるか？**
大杉立（東京大学農学生命科学研究科・特任教授）

2．**ゲノム科学が農学にもたらすもの**
ー植物ゲノムの研究と応用ー
倉田のり（農業・食品産業技術総合研究機構・理事）

3．**ヒトと動物の感染症－人間社会への影響－**
甲斐知恵子（東京大学医科学研究所・教授）

4．**ゲノム情報の利用とその改変による**
カイコの遺伝子機能解明と新たな昆虫産業への展開
嶋田透（東京大学農学生命科学研究科・教授）

5．**未来の車は植物で作る**
矢野浩之（京都大学生存圏研究所・教授）

6．**植物の反応をみる－細胞～地球環境－**
大政謙次（日本学術会議・第２部副部長）

質疑応答

閉会挨拶

総合司会　川井秀一（京都大学総合生存学館・学館長）

(C) designed by Freepik

主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・近畿地区会議
共催：京都大学大学院総合生存学館 (思修館)
後援：日本学術振興会学術システム研究センター農学専門調査班
問い合わせ先：京都大学大学院総合生存学館　TEL & FAX：075-762-2013　URL：http://www.gsais.kyoto-u.ac.jp